

ゆきママの

ブログでは書けない マル秘レポート

これで安心！ FXスタートガイド 永久保存版





ゆきママの

秘

ブログでは書けない マル秘レポート

これで安心！FXスタートガイド 永久保存版

～ はじめに ～

この度は、ゆきママのオリジナルレポートをお手に取っていただきまして、誠にありがとうございます。

今回は初のタイアップレポートということもあり、これから始めるという方へ向けて、FXでありがちな疑問やポイントについて解説してみました。

投資はリスクですが、投資をしないこともリスクと言われるこの時代…。レポートを読むことでFXにおける不安などを解消し、実行実質レートで42年ぶりという未曾有の円安相場をしっかりと活用していただければ幸いです。

また、既にFXでトレードしている方でも、要点などを再確認するためにお使いいただければと思います。



第1章

本当は怖くない！ よくある質問Q&A

～まずはFXの不安を完全解消～

この第1章ではFXの基礎的なことや、FXを始める際に多くの方が不安に思っていることなどについて簡単に解説しています。まずはこれを読んでFXとは何なのか、そしてFXの利点などをご理解いただければと思います。

【そもそもFXってなんだろう？】

最近ではアベノミクス相場も手伝って、FXという単語を目にする機会が増えてきていると思います。ネガティブなイメージをお持ちの方もいるかもしれませんが、まずはFXとは何なのかといった疑問を解決しておきましょう。

●FX=Foreign eXchange(外国為替証拠金取引)とは？

外国為替取引とは、その名の通り日本の円とアメリカのドルといった異なる2つの通貨を交換する取引を意味します。そのまんまですね。

ただし、FXは外国為替の「証拠金取引」なので、実は証拠金を担保にすることで、現行では最大25倍の金額を取引することが可能となっています。

そして、少ない証拠金を預けて実際には大きな取引をするという仕組みを「レバレッジ」と呼び、小さな力で大きな物を持ち上げるテコ(レバレッジ)の原理からきています。

このレバレッジはFXの最大の特徴となっていますが、利点としては少額でも投資を楽しむことができるということや、同時に資金効率が高まるということが挙げられるでしょう。



仮に、100万円分の取引をしようと思った場合、レバレッジを25倍に設定すれば25分の1の4万円の証拠金があれば取引することができますので、まとまった資金があまり無いという方にとって強い味方になってくれます。

また、少ない資金で大きな取引ができることからもお分かりのように、高い資金効率を実現することも可能になっています。

例えば、1ドル＝100円の時に100万円の資金で1万ドルを買っておき、1ドル＝110円になった時に1万ドルを円に戻せば110万円となり、10万円の利益が得られます。

この一連の取引をもしも25倍のレバレッジをかけて行っていたとすれば、100万円で25万ドルを買うこととなりますから、決済した時の利益も25倍で250万円得ることになります。

このように、FXでは少ない資金で大きな取引をし、高い資金効率を実現することも可能ですが、裏を返せば大きな損失を被ってしまう可能性も同時に秘めていますので、注意して取引する必要があることは覚えておきたいですね。

FXのメリット・デメリットまとめ

ここまで読んで、「要は外貨の取引なのね？ だったら、レバレッジをかけないなら銀行で外貨預金をやっても良いじゃない？」と、思いの方もいるかもしれません。

しかしながら、FXには外貨預金にはないメリットも多くありますので、デメリットを含めてまとめておきたいと思います。



1 運用コストではFXが断然お得？

まず、外貨預金とFXにおいて、最も明確な違いが出るのはコストでしょう。

銀行では、TTS (Telegraphic Transfer Selling rate) という銀行が顧客に外貨を売るレート (顧客が買うレート) と、TTB (Telegraphic Transfer Buying rate) で銀行が顧客から外貨を買うレート (顧客が売るレート) が設定されており、これを基準にして外貨預金を行うことになります。

※一般的に、このTTSとTTBの価格差は米ドルで2.0円、ユーロで3.0円となっています (一部銀行では価格差がより小さい場合もあります)。

つまり、TTSレートが1ドル=100円となっていた場合、TTBレートは1ドル=98円ですから、この2円という価格差が銀行で外貨預金を行う際のコストとなります。

一方、スプレッドの狭いFX会社ではドルと円を売買するときの価格差は0.3銭となっています。

2円と0.3銭と聞くと、わずかな違いしかないとお思いかもしれませんが、これは取引する際のコストとして非常に大きな差となります。

例えば、1万ドルを買おうとしたとすると、銀行ではなんと20,000円 ($2\text{円} \times 10,000$) のコストがかかりますが、スプレッドの狭いFX会社ではたったの300円 ($0.3\text{銭} \times 10,000$) で済んでしまいます。

さらに、多くのFX会社では取引手数料や口座維持手数料などは存在せず、無料となっていますから、運用コストを比べるとお得と言えます。



2 FXは24時間気軽に取引できますが、自己責任も伴います

外貨預金にも普通預金や定期預金があり、普通預金はいつでもドルを円に戻すことができますが、金利は低め。定期預金は金利は高めに設定されていますが、原則として一定期間は解約できないなど制限が多いです。

そして、FXの場合は基本的に平日なら24時間いつでも取引ができることから、ライフスタイルに合わせて自由に取引することが可能となっています。

ただし、FXは専用口座が必要なことや、ネット上での取引となるため、ある程度のパソコンの知識というか、普通にインターネットを使いこなせるぐらいにはなっていないと厳しいという面はあるでしょうか。

また、銀行に行って対面での取引をするのとは異なり、FXでは操作ミスなどの誤発注により意図しないトレードが成立してしまう可能性もあります。まあ気がついたら反対売買すれば良いだけですが、こういったリスクがあることも事実です。

この辺はしっかり確認しながらやるということしかありませんが、個人に対する責任というのはどうしても大きくなってきますから、注意してトレードを進めていきたいですね。

3 外貨預金はペイオフ対象外ですが、FXは全額信託保全です

意外と知られていませんが、実は外貨預金はペイオフ対象外となっています。そもそもペイオフとは、金融機関が破綻した場合に、預金保険機構が代わって元本1,000万円とその利息を上限に預金者に支払うという制度です。

つまり、1,000万円までなら安心と言われる理由がここにあります。しかしながら、外貨預金に関してはこのペイオフの対象外なので、破産状況にもよりますが、まず満額支払われることはなく、最悪の場合1円も返ってこないということが起こりえます。



では、FXはどうかというと、現在はFX取引における顧客の預かり金は全額信託保全が義務付けられています。信託保全とは、取引会社が破綻した場合に、信託会社から資金が返還される仕組みのことです。

ちなみに、預けた証拠金は当然として、保有するポジションから算出された評価損益を反映した全額を信託保全されています。また、信託保全先の銀行が破綻した場合でも、信託財産に対する強制執行や仮差押などを行うことが認められていないため、預け先の倒産といったリスクからも保全されています。

ただし、全額信託保全にも全くリスクが無いわけではなく、タイムラグがあるため含み益などに関しては増減も予想されますが、外貨預金と比べればその差は歴然ではないかと思います。

以前は法整備が整わずに問題も多かったFXですが、最近はユーザーの保護が行われるようになってきているんですよ。

このようにFXにはFXだけにしかないメリットが多く存在しますので、特性を理解した上で活用していきたいところでしょう。

【ネットではFX＝ギャンブルと言われていますが…】

残念なことに、FXをやったことがない人は、あるいはやったことがある人でも、「FXはギャンブルだ！稼げるわけがない！」というような否定的な見解を持っている方は少なくありません。

ただ、他方では「FXはれっきとした投資だ！」という人もいて、ネット上では激論が交わされていることもあります。

一体、どちらの見解が正しいのかと言えば、どちらもそれぞれに正しいとゆきママは考えています。結局のところ、FXを『ギャンブル』にするか『投資』にするかは、使う側の姿勢に委ねられているからです。



ほとんど何も考えずに売り買いを繰り返したり、一攫千金を狙いハイレバレッジで大量の注文を発注し続けるという行為は、間違いなくFXを『ギャンブル』にしてしまったと言えるでしょう。

では、『投資』にしていくためにはどうしたら良いのか？それは、自分の利用する商品であるFXの特性を理解し、日々、学んでいく姿勢を忘れないことだと思います。

勝てた場合は何故勝てたのか、負けた場合も同様に何故負けてしまったのかを検証し、次のトレードに活かすという努力を続ける姿勢がFXを投資にしていくことを忘れずにいたいですね。

【税金はどうする？会社にバレない裏技とは！】

FXを始める時のハードルとして、稼いだ時の税金はどうするのかといった悩みをお持ちの方も少なくありません。中でも、特にサラリーマンの方は会社に知られたくないというお話を耳にすることがありましたので、その辺について詳しく解説していきます。

●落とし穴を要チェック！確定申告が不要なのと無税は違う？

ちょっと面倒なルールでもあり、大きな落とし穴になっているのですが、一部サイトなどで給与所得・退職所得以外の所得（FXの利益などを含む）が20万円以下なら非課税といった表記がありますが、それは嘘というか間違いですのでご注意ください。

※税金がかかるのは所得に対してで、所得とは収入から必要経費を引いて残った金額。所得＝収入－経費となります。

どういうことかということ、給与所得・退職所得以外の年間所得が20万円以下の場合でも本来は税金が発生するのですが、確定申告の義務が免除されるため、結果的に課税されないといった形なんですね。



したがって、サラリーマンやアルバイト、パートの方などで、特に確定申告をする必要がなくてしないという方は、給与所得・退職所得以外の年間所得が20万円以下であれば申告は不要となり、結果的に課税されることはありません。

しかしながら、何らかの事象により確定申告をする必要がある方（給与収入2,000万円以上ある方や医療費の還付金を受けたい方、家などを買った場合など）は、給与所得・退職所得以外の所得の多寡に関わらず申告する必要がある、20万円以下の所得であっても結果的には課税されてしまいます。

非常に理不尽なルールではありますが、少額でイチイチ申告されると税務署としても作業負担の方が大きくなって困るけど、申告する必要がある人はついでに申告してしっかり払ってね！といった感じになっています。

ちなみに、働いてお給料などをもらっていない（他に収入のない）専業主婦の方などは年間所得が38万円以下であれば基礎控除の範囲内なので、これもまた申告する必要がないことになっています。

非課税と申告が不要ということについては、意外と勘違いされている方も多いとのことなので要注意です！

●問題は住民税！普通徴収を選択して会社バレを防ごう

基本的には株やFXといった資産運用は副業ではありませんから、会社に知られても何ら問題ありませんが、やはり古い体質の会社だとお咎めを受けてしまうといった話もあるんですね。

上司や同僚に知られてしまい一部から反感を買ってしまうといった心配や、スマホを見ているだけで仕事でもコソコソとトレードしてるんじゃないかと疑惑の目を向けられるかもしれないといった不安から、なかなかトレードに踏み出せないといった方もいるようですので、ここでは会社にはバレない方法を解説していきます。



まず、FXで得た所得にかかる税金は所得税と住民税があるのですが、所得税は自身で納めることになっていますので大丈夫です。

しかしながら、住民税は特別徴収といって、通常の場合は会社に通知して給与から差し引いてもらうという制度となっていますから、この際に役所から会社に通知が行ってしまい、毎月の給与から天引きする住民税が例年より高くなっていると、「何かやって収入が増えてる！副業じゃないだろうな！」と疑われてしまうんですね。

そこで、確定申告の際には、住民税を自身で納める『普通徴収』を選択することが会社にバレないためには必須です。確定申告所には『住民税に関する事項』という欄がありますので、FXの所得を申告する際に『自分で納付』という欄にチェックすることで、住民税の納付書が自宅に届いて自分で支払うことになります。

ちなみに、この際に直接納めなければならない住民税というのは、確定申告をした際に増額した分だけですので、給与所得などの分は例年どおりに会社で特別徴収してくれます。これで会社に知られることなく、こっそりと住民税を納めることができますよ。



第2章

これで安心？ トレードのポイント 総まとめ！

～ゆきママ流FXマル秘テクニック～

ここではトレードする際のポイントについてまとめてみました。このレポートだけで公開しているマル秘テクニックもありますので、FXを始める前にぜひしっかりと読みいただければ幸いです。

【トレードのオススメ時間帯とタイミング】

FXのメリットとして24時間取引できるということを書きましたが、値動きのある時間帯というのは偏っていますので、自身のライフスタイルやトレード手法を考えながらベストな時間帯をチョイスしていきましょう。

●各市場の傾向や特徴についてまとめ

黒田日銀総裁に代表されるような、日本の政府関係者からの発言などで東京時間(9:00～15:00)にも大きな動きはありますが、基本的には実需筋と呼ばれる自動車関連企業や商社といった貿易の決済で為替取引を行う参加者が多いため、上下に売買注文が置かれていることが多く、一方的な動きが出にくいといった特徴があります。

そして、欧州時間(16:00～翌3:00)とNY時間(21:00～翌6:00)は値動きが激しくなる傾向があります。特に欧州勢の参入後の2時間程度(16:00～18:00)は一定のトレンドが出やすいこともあり、デイトレーダーの間では人気の時間帯といえるでしょう。



この欧州時間とNY時間は、為替の値動きから利益を上げようという投機筋が一気に参入してくることもあって思惑的な値動きが出やすいですし、アメリカの重要な経済指標が夏時間であれば21:30、冬時間であれば22:30に発表されることも大きな要因となっています。

中長期的な視点でトレードする際はあまり関係ないかもしれませんが、デイトレードをするのであれば、やはり自分の得意な時間帯を見つけていただきたいと思います。

●狙われるミセス・ワタナベ！ ゆきママがトレードしたくない時とは？

日本人の個人投資家をミセス・ワタナベ、あるいはキモノ・トレーダーと海外の報道機関が名付けていますが、実はこのミセス・ワタナベは投機筋から度々ターゲットにされることがあります。

投機筋はマーケットに出ているストップロス注文を狙って偏った取引を行うことがあり、いわゆる「ストップ狩り」を意図的に仕掛けてきます。

※ストップロス注文とは、例えば売りポジションの場合には、ある一定の値段まで上がってきたら買い戻して、それ以上の損失を避けるためにポジションを決済する損きり注文の一種です。

これは原理的には非常に単純で、直近の安値や高値付近、または120円や130円といった切りのいい数字にはストップロス注文が大量に集まっていますので、投機筋はこれを狙ってくるんですね。

特に日本の個人投資家は逆張りが多いことが知られていますから、投機筋がストップロスを巻き込むことでミセス・ワタナベに損失確定を促し反対売買をさせつつ、さらにブレイクアウトを期待した新規の注文を呼び込んで、一段と相場を進めることで多額の利益を得るといったトレードが行われることがあります。



なので、日本人投資家の注文状況が逆張りに傾いている時はトレードを控えたいところでしょうか。また、市場参加者の少ない早朝などは、相場に影響を及ぼすのが比較的容易になりますから、そういった時間帯は避けています。

その他、欧米の休曜日なども市場参加者が少なくなり、仕掛け的な注文によって相場が左右されやすいので、注意しておきましょう。

【まずはここから始めよう！コツコツFX投資術とは？】

ここでは、これからFXを始めるという方のために、トレードのポイントなどをまとめさせていただきました。やはり陥りがちな失敗というのはありますから、実際に取引する前にお読みいただければ幸いです。

FXで陥りがちな失敗を回避する3つのポイント

1 余裕資金でまったりと

最初に投資する金額の1つの目安は、「自分にとって失ってもそれほど痛くない金額」でしょうか。要は負けても引き返せる金額で始めるというのが大事なのかなと考えています。

負けてしまうと、それを取り戻すために普段やらないような相場でもトレードしたりしてしまい、余計に傷口を広げてしまうパターンが本当によくありますし、熱くなって冷静さを欠いた状態でトレードしても好結果が出る可能性は低いですから、そうならないためにも余裕資金でまったりやってみましょう。



② レバレッジをかけすぎない

FXのメリットとして、レバレッジをかけることで少ない資金で大きな取引をすることができ、資金効率を高めることが可能と書きましたが、同時にリスクも大きくなっていることを忘れてはいけません。

レバレッジを低めにするということは、ポジションを持ちすぎないということのほか、取引資金に余裕を持たせるということにもつながります。

実際にトレードすると分かると思いますが、レバレッジを高くし過ぎてしまうと相場のちょっとした動きで追証が発生してしまったり、あるいは強制的にロスカットされてしまって、全く自分の思い描くトレードができないといったことはままありますので、まずは低めのレバレッジでトレードしていきたいですね。

③ 基本はトレンドフォロー

FXの投資手法にはレンジブレイクや逆張りを狙った手法がありますが、まずは勝率が高いとされている順張り（トレンドフォロー）を中心にトレードしていきたいところでしょう。

順張りは相場が一定の方向を向いていると判断した際に、その流れにそのまま乗っかる形で相場と同じ方向に売買をすることです。

相場がある程度は動き出さないとトレンドは見極められないこともあり、どうしても流れの途中からの参戦となってしまうと大きな利益が見込みにくいと言われていますが、順張りでコツコツと稼いでいくことが自信や余裕になっていきますので、まずはここからスタートしたいですね。



【ゆきママ流のマル秘メンタルテクニックを大公開！】

「FXはメンタル！」というように、どんな状況でも平常心でいられることが重要ということはとても多くの方が指摘しています。ただ、ぶっちゃけメンタルを鍛えるのは非常に難しく、一朝一夕で改善するというものでもありません。

そこで、まずはメンタルを鍛えるのではなく、精神的な負荷を最小限にしてトレードをコントロールするためのポイントについて、以下にマル秘テクニックとして公開させていただきました！

- ① あらかじめ負けることも想定しておく
- ② 目的をもってトレードする
- ③ ルールを決め、曖昧にしないこと

いずれも当たり前といえば当たり前のことなのですが、これらのことを守っていれば、メンタルが弱い方でもそれほどブレずにトレードできるかと思います。

●完璧主義はNG！？次のチャンスに備えましょう

①については、前もって負けを受け入れておくということです。特にFXの初心者の方は絶対に負けてはいけないと思いがちですが、それは間違いと言えるでしょう。

FXだけでなく投資全般に言えることですが、実は負けを決めるのは自分自信なので、極端な話、どんなに含み損を出していても自分で決済しない限りは、負けを確定することすらできません。



ついつい多額の含み損を抱えたままにしまい、最終的に証拠金が尽きてシステムから強制的にロスカット（損切り）されるまで放っておいてしまった、というようなありがちな失敗談は、皆様も一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。

やはり、FXで一定以上の成果を上げる過程において負けることは避けられませんから、損を確定して余力を残すことは次の投資にもつながると前向きに考え、ポジションを塩漬けにしないことを心がけましょう。

● 思いつきでトレードしていませんか？

②で書いたように、トレードというのは、本来、ポジションを持つ前に予想や計画を十分にした上で行うものです。

しかしながら、相場を見ていると不思議と引き込まれてしまうことがあつたりします。根拠はないものの、「ここしかない！」などと考えて衝動的にエントリーしてしまったという経験はないのでしょうか？

こうなってしまうと、ほぼ負けは見えています。なんせノープランなのですから、後は値動きに対して右往左往するしかありません。

このようなトレードでは、ドキドキハラハラして当たり前というか、メンタル云々以前の問題なので、事前にしっかりとエントリーのタイミングなどを決めた上で相場に向き合っていただければと思います。



●ルールが守れないのは曖昧だからかもしれません

結局、最終的に行き着くところはルール作りになってしまいますが、自分の決めたルールはなかなか守れないというのが人情というものです。

ただ、その要因の1つに③にある曖昧さが影響しているかもしれませんので、ルールを決めるときには細かく詰めて、厳格に運用するようにしましょう。

ルールに緩さがあると、「ちょっとこれぐらいなら」という気持ちでトレードしてしまい、結局は何をやっているのかわからないといった状態になってしまいますからね。

●メンタルの向上は最終的な課題に

冒頭でも書いたように、今回はメンタルを鍛えるというよりは、精神的な負担を最小限に抑えるといったことに主眼を置いています。

というのも、実はゆきママ自身も最初はトレードに対して一喜一憂しがちで、どちらかといえばメンタル的には弱い人間でしたが、勝ちを積み重ねることで、どんな相場でもそれほど心を揺らすことなく対応できるようになりました。

やはりFXにおけるメンタルの問題は、短時間で解決できるものではありませんから、まずはできるだけメンタルに負荷をかけずにトレードをすることを心がけて、徐々に鍛えていくことが望ましいと考えています。



第3章

2015年の為替相場 と世界経済見通し

～アベノミクスはまだこれから～

今後の為替相場はどうなるかということですが、中長期的な円安・ドル高の流れが継続していく可能性が高いと思われますし、ユーロ安トレンドも健在でしょう。

ただ、問題としてはどこまで円安が続くのかということで、この辺は市場関係者の間でも見解が分かれるところです。

とはいえ、2015年末に1ドル＝130円といった目標レートを設定しているヘッジファンドが多いですから、まずはここが1つの目安として参考におきましょう。

【アベノミクスに乗り遅れた？いいえ、まだまだこれからです！】

6月にIMF（国際通貨基金）のラガルド専務理事からドル高懸念が出たことを皮切りに、その後はオバマ大統領、さらに黒田総裁と相次いで円安、ないしはドル高に対するけん制的な発言が続きました。

いずれも為替レートに言及した異例の発言であるため、これをもって円安・ドル高相場の終了、ひいてはアベノミクス政策が限界を迎えたとの声も上がりましたが、一部のエコノミストからは、あえて一段の円安・ドル高相場に備えるべきといった話もあり、まだまだ本格化はこれからではといった見方があることも事実です。

この理由としては、そもそも要人がこのようなメッセージを発信すること自体がさらなる円安やドル高になる可能性を危惧していることの表れだからとしています。



何だか逆転の発想というか、少しこじつけ過ぎな感もありますが、これには裏付けもあって、実は5月にIMFは日本に対してさらに追加緩和を行うべきという報告書を作成しているんですね。

これは、日本が2%の物価上昇目標を達成できない状況であることを踏まえての提言ですが、もしも再度、追加緩和が行われることになれば、為替レートは一段と円安方向に傾くと考えられます。

つまり、IMFやオバマ大統領、黒田総裁が相次いでけん制発言をする裏には、こういった事情が潜んでいるからではないかという指摘がなされているのです。

果たしてこの指摘は正しいのかといった面もありますが、本質的な問題として、これらの発言で中長期的な円安・ドル高トレンドに変化があるかといえば決してそうではありません。

アメリカ経済は先進国の中でどこよりも好調であり、実際に今年の後半から来年にかけて加速するのではないかとされています。一方で、日本は日銀は下半期から急回復するといったシナリオを繰り返し提示していますが、内外からは不可能といった声が強まっていますので、さらなる緩和余地が残されているのではないのでしょうか。

したがって、アベノミクスはまだまだこれからも続くことが十分考えられますから、乗り遅れたと思わずに、円安・ドル高が緩んだ時には押し目として捉えておきたいところです。

【日本の破綻に備える？FXで資産防衛の検討を！】

4月に大手格付け会社のフィッチ・レーティングスが日本国債の格付けを引き下げて「A（シングルエー）」としたことは記憶に新しいところですが、実はこの格下げは将来的には非常に大きな日本にとってリスクになり得るため、ほんの少し対応を誤るだけで破綻といった道も見え隠れしています。個人的には死刑宣告に近いと思っていますけどね・・・。



●日本国債格下げは今後何をもたらすのか？

順を追って説明していくと、まずバーゼル銀行監督委員会が国債の突然の暴落に備えるため、新たな規制を2016年にとりまとめて2019年以降に適用するといった話がかここ最近持ち上がっています。

※バーゼル銀行監督委員会とは、1974年にG10 諸国の中央銀行総裁らの合意により、スイスのバーゼルで創設された機関で、銀行監督に関する継続的な協力のための協議の場となっています。

現段階での草案によると、銀行が持つ国債などの債券の価値が下がるリスクを重く見て、そうなった場合には一定以上の資本増強を行うか、あるいは売却を求める行政処分を下せるといった内容になっています。

さらに、日本の金融庁は国内の金融機関が日本国債を持っている場合、リスクウェイトをゼロとしており、バーゼル銀行監督委員会もこれを容認してきましたが、この例外措置も見直されるといった話があります。

これが何を意味するかといえば、とにかくリスクの高い国債はより売れなくなるということです。去年から今年にかけてロシアやギリシャ国債の利回り(金利)が数%台から数十%台まで急激に上昇するといったことがありましたが、その度に多額の資本の積み増しを求められたり、あるいは持っておきたいのに強制的に売却を迫られては、銀行としてはたまったものではありませんからね。

したがって、このような面倒事が起こると予想される不安定な国の債券を買おうとは誰も思わなくなるでしょう。

加えて、もっと大きな問題になるのが、フィッチ・レーティングスによる日本の国債格付けは最初に書いたように現在「A」となっていますから、例外が認められなくなった場合には、本来のリスクウェイトが20%として自己資本規制が行われ、日本の国内銀行は保有する日本国債の額に応じて資金を積み増す必要があります。



※フィッチ・レーティングスで「AAA、AA +、AA、AA -」の格付けはリスクウェイトゼロ、「A +、A、A -」はリスクウェイト20%ととして、金融機関の国際ルールとして自己資本規制が行われています。

そして、もし積み増すことができなかった時には、売却させられてしまうことになるため、売りが売りを呼ぶ負のスパイラルに陥ってしまう可能性があるわけですね。

したがって、かなり危うい状態になっているわけですが、もっと言ってしまうえば現在の格付けが2段階落ちて「A -」のさらに下となる「BBB +」以下になってしまうと、長期的な債務履行能力に問題があるとされ、海外の年金等の公的運用機関はそもそも日本国債を持ってないことになってしまいます。こうなるとまさに売りたくても売れなくなってしまうのです。

というわけで、日本国債を取り巻く深刻な現状についてお分かりいただけたでしょうか。今のところは世界的にも異常とされるレベルにまで、国内の金融機関が皆さんが銀行に預けた貯金や、生命保険会社に収めている保険料で日本国債を買い漁っているのです、95%近くが国内で消化されていますが、近い将来は海外にも売らなければならない時がくるはずですよ。

しかしながら、その時には国際的なルール上、売れなくなってしまうという可能性が大なので、それに備えて行動することを考えたいですね。

●実質財政ファイナンス状態といった指摘も…

さらに、日本の現状としても、実質的に財政ファイナンス状態に陥っているということが指摘され始めていることも見逃せません。これは、中央銀行（日本の場合は日銀）が、政府に対して資金を直接ファイナンス（供給）するということです。日本は一応、一般銀行から買い上げているとはいえ、保有残高は250兆円を優に超えています。



しかも、年間80兆円ペースの購入を続けていますから、現状の政策を続けていくのであれば、2017年末には発行国債のほぼ半分を日銀が保有することになります。このように、まさに異次元の金融緩和、つまり国債購入を行ってきたわけですが、これは日銀が国債を直接買い上げる財政ファイナンスではないかと見られているわけですね。

※通常であれば、政府が発行する国債（国の借金）は一般の民間金融機関が購入しています。一般民間銀行は私たちの預貯金などを使って国債を購入するため、購入額にも自ずと限界がありますが、中央銀行であれば実質的に無限に買い上げることができるため、裏を返せば、政府が無限の資金源を得てしまうことにもなるため、財政規律が崩壊して通貨への信用が無くなってしまい、ハイパーインフレに突入していくこともあります。

加えて、果たして今後この購入量を減らして出口戦略を実施することができるのかも疑問視されています。もし、日銀が国債購入ペースを緩めると発表すれば、国債価格が暴落し、金利が急上昇して日本崩壊といったパターンとなるわけで、海外ではそういったことを危惧する声もあります。

それから、日銀が国債購入を止められなかった場合には、これはもう無限に円が発行されるのと同義ですから、円の価値が下がり続け一段と円安が続くことになるでしょう。

したがって、いずれのパターンでも円安が続く可能性が高く、また破滅的な結果になるということで、120円台前半でもまだまだ魅力的な水準であるとするヘッジファンドも少なくありません。

これはかなり極端な円安シナリオではありますが、日米の金融政策の差を考えても、これから大幅な円高が進むという展望が描きにくいのは確かですので、円安にヘッジするというのが求められているのかもしれない。



●さらなる円安に備えて資産防衛の検討を！

一段の追加緩和が行われ、アベノミクスによるインフレ・円安政策がさらに進む可能性や、日本の国債格付けの引き下げ、実質的な財政ファイナンスであるとの指摘は日本の財政破綻をも暗示していますから、これに備えるというのは決して悪いことではないと思います。

仮に、20% 程度の確率で1ドル＝200～300円程度の円安がくると考えるのであれば、資産の20% 程度をドルなどに振り分けることは資産防衛という意味で有力な方法でしょう。

やはり、実行実質レートで42年ぶりという未曾有の円安相場になっていますから、FXを利用してこのチャンスをしっかり活かしていただければと思います。



～ おわりに ～

このレポートを最後までお読みいただき、本当にありがとうございました。

これまでの日本は、円高かつデフレでしたので投資をしないことこそが勝利の方程式となり、資産価値が勝手に増えてきましたが、今、まさに大きな変革期を迎えつつあります。

なんといっても、アベノミクスで日経平均が2倍以上になり、40%近くも円安となっていますので、富裕層や海外投資家だけが恩恵に与る現状を黙って見ているだけでなく、私たちがFXなど身近にある投資の手段の活用を検討していきましょう。

2015年7月 ゆきママ

公 式
サ イ ト

普通の主婦がFXで10万円を
300万円にした(継続)

<http://fxshufoo.blog.so-net.ne.jp/>

twitter  @yukiyukimama

facebook  <https://www.facebook.com/fxshufoo>

【免責事項】

本レポートは情報の提供を目的としており、投資その他の行動を勧誘し、特定企業を推奨するものではありません。本レポートの情報の利用はもとより、FX等の投資はご自身の判断とリスク負担のもとで行っていただきますようお願いいたします。

また、本レポートに記述してある情報の正確性については万全を期しておりますが、内容を保証するものではありません。したがって、記載が不正確であったことにより生じたいかなる損害に関しても、一切の責任を負わないものとします。

【ご注意】

本レポートを許可なく転載、公開することは固くお断りいたします。また、当レポートを複製したり、他の媒体に再利用したりする行為も著作権法により禁止されていますので、十分にご注意くださるようお願いいたします。

Copyright © 2015 Yukimama All Rights Reserved.